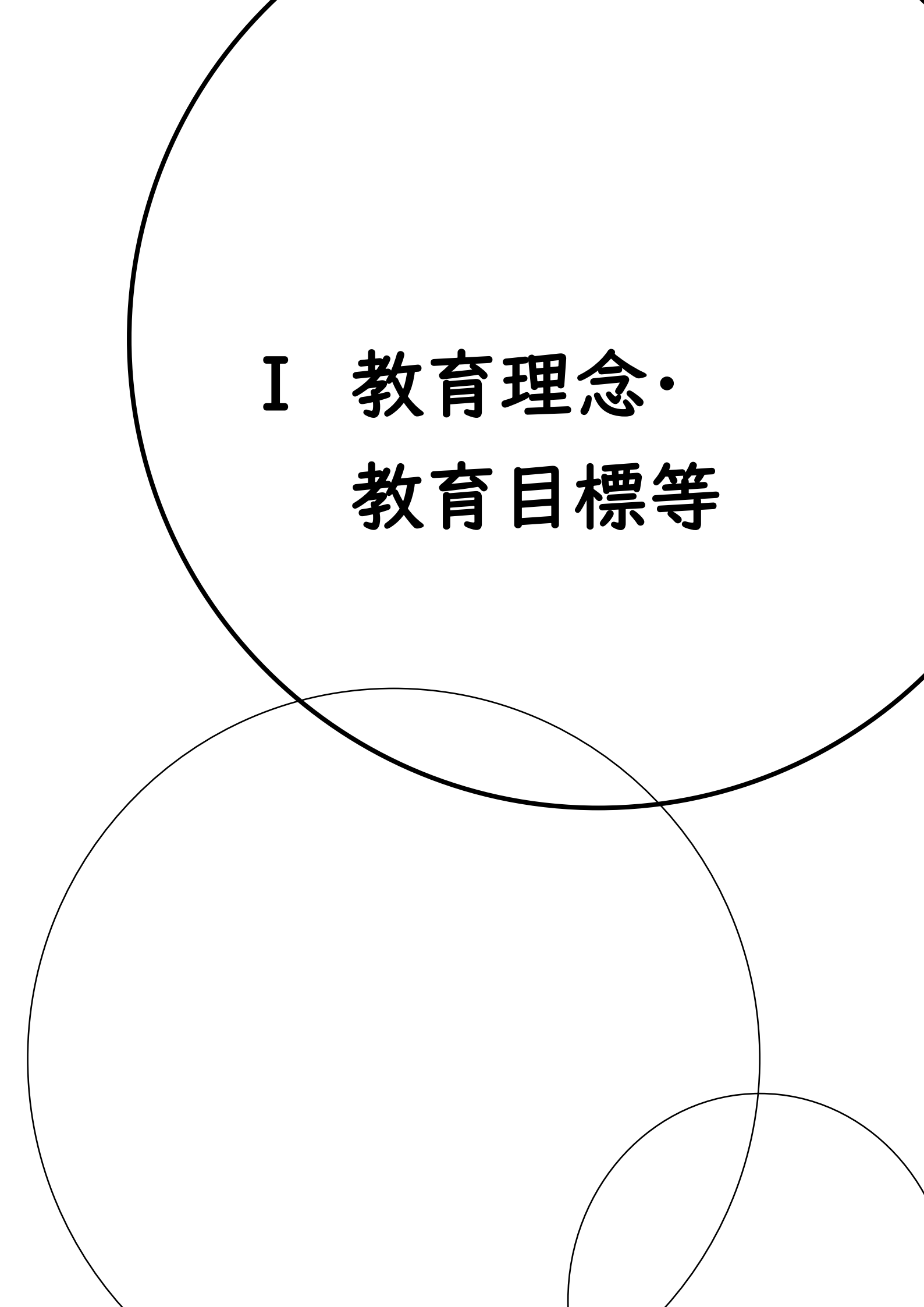


The background features three large, thin black circles that overlap each other. One circle is in the upper left, another is in the lower left, and a third is in the lower right. The text is centered within the upper left circle.

I 教育理念・ 教育目標等

教育理念

海洋で育まれた心豊かでたくましい海事技術者並びに
創造性豊かな工業技術者の育成を目指す。

教育目標

- 1 豊かな教養と国際感覚を身につけた、視野の広い技術者を養成する。
- 2 協同の精神と責任感を培い、集中力・耐久力を養い、指導者として必要な能力を育成する。
- 3 探究心を養い、身体を鍛え、先人の遺産を学び、新技術を創造できる能力を育成する。

養成すべき人材像

我が国のものづくりの技術基盤を支え、質の高い専門能力を有し、創造性に富み、国際感覚を身につけた視野の広い実践的技術者を養成する



学科別教育目的

商船学科

- ・ 海技士資格を有し, 船舶の安全運航に対応できる技術者の養成
- ・ 海事関連産業の多様なニーズに対応できる海のスペシャリストの養成
- ・ 幅広い海事関連分野に対応できる基礎から応用に亘る知識と技術, 国際感覚及び管理能力の育成

電子機械工学科

- ・ 電気電子工学と機械工学に関する高度な知識を有する実践的技術者の育成
- ・ コンピュータ・情報関連教育による高度なコンピュータ活用能力の育成
- ・ 論理的文章の表現力とプレゼンテーション能力の育成
- ・ 福祉と環境も考慮に入れることのできる豊かな人間性と責任感の育成

情報工学科

- ・ 豊富な情報技術をもとにした視野の広い応用能力の養成
- ・ グループリーダーとしてのコミュニケーションとプレゼンテーション能力の養成
- ・ 柔軟で創造的なシステムデザイン能力の養成

ディプロマポリシー

本校に在籍し各学科教育目標に基づく以下の能力を身につけ、所定の単位を修得した学生に対して卒業を認定する。

商船学科	電子機械工学科	情報工学科
1. リベラルアーツ, 国際的素養及び生涯にわたって自ら学ぶ力 (1) 人文・社会科学の知識・理論を駆使し, 国際社会のニーズに対応できる。		
2. 実践的技術者に必要な科学的基礎知識 (1) 技術者として必要な数学・自然科学の基礎的知識を専門分野に活用できる。 (2) 情報リテラシー, 基礎的な情報処理技術の知識を習得し, 各種データの解析ができる。		
3. 商船学的専門基盤知識 (1) 専門分野の基礎を学び, 実験結果や簡単な自然現象, 工学現象及び社会事象を解析できる。 (2) 船舶運航及び管理に必要とされる専門技術と知識を持つ。	3. 工学的専門基盤知識 (1) 専門分野の基礎を学び, 実験結果や簡単な自然現象, 工学現象及び社会事象を解析できる。 (2) 電気電子工学, 機械工学に関する専門知識を有し, 問題を解決できる。 (3) コンピュータ・情報に関する知識を有し, コンピュータを活用できる。	3. 工学的専門基盤知識 (1) 専門分野の基礎を学び, 実験結果や簡単な自然現象, 工学現象及び社会事象を解析できる。 (2) 情報工学の専門知識を活用し広い視野で工学分野の課題を解決できる。
4. 社会実装に応用・実践できる力 (1) 豊かな教養と倫理観, 責任感を有し, 福祉向上や環境保全など持続的発展を目指す社会に貢献できる。		
—		(2) 情報工学の実験・演習や研究活動を通じて自ら学び柔軟で創造的に情報システムをデザインできる。
5. 自分の意見を論理的に表現でき, 周囲と協調しあうコミュニケーション力と人間力 (1) 技術者としての主体性, コミュニケーション能力, 指導力を発揮し, 課題を解決できる。		
(2) 海技従事者及び海事従事者として, 課題を発見し解決できる。	(2) 報告書や論文など論理的文章の作成及び学術的プレゼンテーションができる。	(2) 自らの考えを明確な言葉で表現するプレゼンテーションができる。

カリキュラムポリシー

本校では、ディプロマポリシーにて掲げた能力を身につけるため、次のような編成方針に基づいた教育を実施する。

商船学科	電子機械工学科	情報工学科
商船学科では、ディプロマポリシーにて掲げた能力を身につけるために、以下の科目群を開設する。	電子機械工学科では、ディプロマポリシーにて掲げた能力を身につけるために、以下の科目群を開設する。	情報工学科では、ディプロマポリシーにて掲げた能力を身につけるために、以下の科目群を開設する。
1. リベラルアーツ、国際的素養を身につけられるように (1) 低学年次に幅広い教養を身につけるために人文社会系科目を設け、講義を主とした学修方法により展開する。 (2) 低学年次にライフ／アースサイエンス、環境問題などのリベラルアーツ及び汎用的能力に関する科目を設け、講義を主とした学修方法により展開する。併せて、これら科目では普遍的に有用性をもつ能力や分野横断的能力を涵養する。 (3) 低・高学年次に外国語（英語）科目を設け、講義や演習を主とした学修方法により展開する。		
2. 実践的技術者に必要な科学的基礎知識を修得できるように (1) 低学年次に化学や物理、数学などの自然科学系科目を設け、講義や演習を主とした学修方法により展開する。 (2) 低学年次に情報リテラシーに関する基礎情報系科目を設け、講義や演習を主とした学修方法により展開する。		
3. 商船学的専門基盤知識を修得できるように (1) 低学年次に商船学に関する専門基礎科目を設け、講義や演習を主とした学修方法により展開する。 (2) 低・高学年次に航海系及び機関係の科目を設け、講義や演習を主とした学修方法により展開する。	3. 工学的専門基盤知識を修得できるように (1) 低・高学年次に専門基礎科目を設け、講義や演習を主とした学修方法により展開する。 (2) 低・高学年次に電気電子工学系、機械工学系の科目を設け、講義や演習を主とした学修方法により展開する。	3. 工学的専門基盤知識を修得できるように (1) 低・高学年次に専門基礎科目を設け、講義や演習を主とした学修方法により展開する。 (2) 低・高学年次に情報工学系の科目を設け、講義や演習を主とした学修方法により展開する。
4. 社会実装に応用できる能力を身につけられるように (1) 船舶運航に必要な専門知識と技術修得のための商船系専門科目を設け、講義や演習を主とした学修方法により	4. 社会実装に応用できる能力を身につけられるように (1) 低・高学年次に電気電子工学に関する科目を設け、講義や演習を主とした学修方法により展開する。	4. 社会実装に応用できる能力を身につけられるように (1) 低・高学年次にソフトウェア系に関する科目を設け、講義や演習を主とした学修方法により展開する。

展開する。 (2) 航海系に関する科目を設け、講義や演習を主とした学修方法により展開する。 (3) 機関係に関する科目を設け、講義や演習を主とした学修方法により展開する。 (4) 全学年を通して校内練習船実習及び実験・実習科目群を展開する。	(2) 低・高学年次に機械工学に関する科目を設け、講義や演習を主とした学修方法により展開する。 (3) 全学年を通して電気電子工学、機械工学に関する実験・実習科目群を編成する。	(2) 低・高学年次にコンピュータシステム系に関する科目を設け、講義や演習を主とした学修方法により展開する。 (3) 低・高学年次に情報通信ネットワーク系に関する科目を設け、講義や演習を主とした学修方法により展開する。 (4) 低・高学年次に情報数学・情報知識を身につけるために機械系、電気・電子系、経済ビジネス系専門科目を設け、講義や演習を主とした学修方法により展開する。
5. 論理的説明力、周囲との協調性及び自ら学ぶ力を身につけられるように (1) 全学年を通して校内練習船実習を展開する。 (2) 卒業研究を設け、新規課題への取り組み、自主的な学習・研究能力、問題解決能力及びプレゼンテーション能力を育成する観点から、学生と指導教員の双方向性を重視した総合的な学修を展開する。	5. 論理的説明力、周囲との協調性及び自ら学ぶ力を身につけられるように (1) 低・高学年次にかけて、プロジェクトベースの科目を設け、これをグループ学修により展開する。 (2) 高学年次に卒業研究を設け、新規課題への取り組み、自主的な学修・研究能力、問題解決能力及びプレゼンテーション能力を育成する観点から、学生と指導教員の双方向性を重視した総合的な学修を展開する。	

(成績評価方法の方針)

本校では、授業科目の成績評価は各科目の到達度を設定し以下の方法で行う。

- (1) 講義科目は、定期試験の成績、小テスト、レポート等の提出物、履修状況などを総合して実施する。
- (2) 実験実習、演習等の科目では、定期試験を実施せず、履修状況や提出物等により評価することがある。

(単位認定基準)

教育課程を編成する各科目の学修の成果は、履修状況と定期試験やレポートなどシラバスに記載された評価方法に沿って総合的に評価する。成績は 100 点法によるものとし、60 点以上を合格とし所定の単位を認定する。

アドミッションポリシー

求める学生像

1. 高専入学後の学習に対応できる基礎学力を身につけている人
2. 学校生活に必要な協調性, 責任感, コミュニケーション能力を身につけている人
3. 社会や集団のルールを守ることができる人
4. 海事分野または工業分野に関する専門知識と技術の習得に意欲のある人
5. 専門知識と技術を身につけ, 新しい技術の創造に挑戦する意欲のある人

入学者選抜方針

本校は、「我が国のものづくりの技術基盤を支え, 質の高い専門能力を有し, 創造性に富み, 国際感覚を身につけた視野の広い実践的技術者」の育成を目的とし, 「求める学生像」に沿って, その能力と適性を有する人材を選抜するため, 「推薦による選抜」, 「体験学習による選抜(商船学科のみ)」, 「学力検査による選抜」, 「帰国生徒特別選抜」を行います。

「**推薦による選抜**」は, 出身学校長が責任を持って推薦した学生で, 本校の教育を受けるのに必要な素養と基礎的学力を有した学生を選抜するため, 推薦書, 調査書及び自己申告書を評価するとともに, 志願動機, 意欲, 適性などに関して作文, 面接及び口頭試問を行い, その結果を総合的に評価します。

「**体験学習による選抜(商船学科のみ)**」は, 本校商船学科での教育を受けるのに必要な素養と基礎学力を有した人を選抜するため, 調査書及び志望理由書を評価するとともに, 本校で実施する体験学習に関する面接を行い, それらの結果を総合的に評価します。

「**学力検査による選抜**」は, 本校の教育を受けるのに必要な素養と基礎学力を有した学生を選抜するため, 調査書を評価するとともに学力検査等を行い, その結果を総合的に評価します。

「**帰国生徒特別選抜**」は, 豊かな国際性を備え, 本校の教育を受けるのに必要な素養を有した学生を選抜するため, 志願動機, 意欲, 適性などに関して, 提出書類の評価と学力検査及び面接を実施し, その結果を総合的に評価します。

専攻科教育目的

海洋交通システム学専攻	電子・情報システム工学専攻
・ 海洋を中心とした国際・国内物流管理分野及び海事関連分野で活躍できる海運管理者の育成	・ 電子・情報システムに関する高度な研究開発ができる実践的開発技術者の育成
・ IT 教育により, 高度なコンピュータ支援能力の育成 ・ 国際化教育により, 語学力や文化的教養の育成 ・ 福祉と環境も考慮に入れることのできる総合力の育成	

専攻科ディプロマポリシー

本校専攻科では、教育上の目的（学則第31条の2）に掲げる人材育成のために次のような具体的な能力と素養を定め、これらを身に付けかつ所定の単位を修得した学生に修了を認定する。

海洋交通システム学専攻	電子・情報システム工学専攻
1. 国際的な視野と倫理観に基づく価値判断ができる海洋交通システム技術者 (1) 文化や歴史を踏まえ国際社会で生じる様々な現象について総合的に把握することができる。 (2) 社会、福祉や環境に与える影響を考慮し、経済的・倫理的な視点から考えることができる。	1. 国際的な視野と倫理観に基づく価値判断ができる電子情報システム技術者 (1) 工学分野における諸現象のしくみを数学的・物理的に理解できる。 (2) 電気電子分野、機械分野及び情報通信分野について論理的に説明できる。 (3) 電気電子分野、機械分野及び情報通信分野の実験・演習を通して、工学的に考察し、活用することができる。
2. 海・船・物流等に係る知識・技術を身に付け、海陸の複合領域で活躍できる海洋交通システム技術者 (1) 商船学分野における諸現象の仕組みを数学的・物理的に理解できる。 (2) 船舶運航に関する航海学、運用、主機関並びに補助機関に関する分野について論理的に説明できる。 (3) 船舶とその運航に関する総合的な分野の実験・実習を通して、理論的に考察し、活用することができる。	2. メカトロニクス・ソフトウェア・ハードウェア・ネットワークのアーキテクチャ技術を身に付け、高度な情報化社会に貢献できる電子情報システム技術者 (1) 工学分野における諸現象のしくみを数学的・物理的に理解できる。 (2) 電気電子分野、機械分野及び情報通信分野について論理的に説明できる。 (3) 電気電子分野、機械分野及び情報通信分野の実験・演習を通して、工学的に考察し、活用することができる。
3. 自然に優しく、人の営みを支える海事関連システムを設計・開発できる海洋交通システム技術者 (1) 日本語・外国語により書かれた文献を理解し、文章や口頭発表により表現することができる。 (2) 個人又はグループで計画的にプロジェクトを進め、創造的なシステムを実現することができる。 (3) 新しい海事に関するシステムの概念を創出し、表現することができる。	3. メカトロニクス、知能システムを設計・構築できる電子情報システム技術者 (1) 日本語・外国語により書かれた文献を理解し、文章や口頭発表により表現することができる。 (2) 個人又はグループで計画的にプロジェクトを進め、創造的なシステムを実現することができる。 (3) 新しいメカトロニクス、知能システムの概念を創出し、表現することができる。

専攻科カリキュラムポリシー

本校専攻科では、ディプロマポリシーにて掲げた能力を身に付けるため、次のような編成方針に基づいた教育を実施する。

海洋交通システム学専攻	電子・情報システム工学専攻
1. 国際的な視野と倫理観に基づく価値判断ができるように (1) 文化や歴史を踏まえ国際社会で生じる様々な現象について総合的に把握することができるように人文科学・社会科学系科目を設け、講義や演習を主とした学修方法により展開する。 (2) 社会、福祉や環境に与える影響を考慮し、経済的・倫理的な視点から考えることができるように技術者倫理や社会科学系科目を設け、講義や演習を主とした学修方法により展開する。	
2. 海・船・物流等に係る知識・技術を身に付け、海陸の複合領域で活躍できるように (1) 商船学分野における諸現象の仕組みを理解するために、数学及び物理に関する高度な自然科学系科目を設け、講義や演習を主とした学修方法により展開する。 (2) 船舶運航に関する航海学、運用、主機関並びに補助機関に関する分野の専門科目を設け、講義や演習を主とした学修方法により展開する。 (3) 船舶とその運航に関する総合的な分野の理論的な考察をする能力、技術を活用する能力を身に付けるために、特別実験を設け、実験を主とした学修方法により展開する。	2. メカトロニクス・ソフトウェア・ハードウェア・ネットワークのアーキテクチャ技術を身に付け、高度な情報化社会に貢献できるように (1) 工学分野における諸現象のしくみを理解するために、数学及び物理に関する高度な自然科学系科目を設け、講義や演習を主とした学修方法により展開する。 (2) 工学分野における専門知識を論理的に説明する能力を育成するために、電気電子分野、機械分野及び情報通信分野の専門科目を設け、講義や演習を主とした学修方法により展開する。 (3) 電気電子分野、機械分野及び情報通信分野の工学的な考察をする能力、技術を活用する能力を身に付けるために、特別実験を設け、実験を主とした学修方法により展開する。
3. 自然に優しく、人の営みを支える海事関連システムを設計・開発できるように (1-1) 外国語による文章理解能力を育成するために、実践的な英語科目を設け、講義や演習を主とした学修方法により展開する。 (1-2) 論理的な文章を作成する能力及びプレゼンテーション能力を育成する観点から、特別研究を設け、学生と指導教員の双方向性を重視した総合的な学修方法により展開する。	3. メカトロニクス、知能システムを設計・構築できるように (1-1) 外国語による文章理解能力を育成するために、実践的な英語科目を設け、講義や演習を主とした学修方法により展開する。 (1-2) 論理的な文章を作成する能力及びプレゼンテーション能力を育成する観点から、特別研究を設け、学生と指導教員の双方向性を重視した総合的な学修方法により展開する。

(2) 個人又はグループで計画的にプロジェクトを進め、創造的なシステムを実現する能力を身に付けるために、特別演習と特別実験によるグループワーク系(プロジェクトベース)科目を設け、演習・実験を主とした学修方法により展開する。 (3) 新規課題へ自主的に取り組む姿勢、研究能力、問題解決能力及びプレゼンテーション能力を育成する観点から、特別研究を設け、学生と指導教員の双方向性を重視した総合的な学修方法により展開する。	(2) 個人又はグループで計画的にプロジェクトを進め、創造的なシステムを実現する能力を身に付けるために、創造工学演習と特別実験によるグループワーク系(プロジェクトベース)科目を設け、演習・実験を主とした学修方法により展開する。 (3) 新規課題へ自主的に取り組む姿勢、研究能力、問題解決能力及びプレゼンテーション能力を育成する観点から、特別研究を設け、学生と指導教員の双方向性を重視した総合的な学修方法により展開する。
---	---

(成績評価方法に関する方針)

これらの科目に対する単位取得の認定は、各科目のシラバスに基づき、以下の方法で行う。

- (1) 授業科目の評価は、科目ごとの試験の成績及び出席状況並びに平常の学習状況(演習・レポート等)を総合して行うものとする。
- (2) 実技・実験・実習・演習などの実践的科目においては、課題への取り組み状況、レポート、発表などを総合的に勘案し、到達目標に対する到達度を評価する。
- (3) 特別研究においては、研究成果をまとめた論文、研究発表、取り組み姿勢などを総合的に勘案し、到達目標に対する到達度を評価する。

(成績の評価及び単位認定基準)

成績の評価は、優、良、可及び不可の評語をもってし、次の評点区分による。

優 80 点以上 良 66 点以上 80 点未満 可 60 点以上 66 点未満 不可 60 点未満

専攻科アドミッションポリシー

求める学生像

1. 商船学もしくは工学の基本的な知識を習得している人
2. 基礎学力をさらに深め、実践力を有するデザイン能力を身につけたい人
3. 研究・開発能力を身につけ、自主的、継続的に努力できる人
4. 技術者倫理を尊重し、グローバルな視野を有する専門家として社会に貢献したい人

入学者選抜の基本方針

専攻科入学者の選抜は、「推薦による選抜」、「学力検査による選抜」及び「社会人特別選抜」の三つの方法で行います。

「**推薦による選抜**」においては、学校長が成績及び人物とも優れているものと認めて責任をもって推薦できる者に対して、プレゼンテーション要旨に添ってプレゼンテーションを行ってもらいます。それに対し、口頭試問・面接を行い、その他の提出書類とともに総合判定を行います。

「**学力検査による選抜**」においては、学力検査（数学、専門科目）及びプレゼンテーション要旨に添ってプレゼンテーションを行ってもらい、それに対して口頭試問・面接を行い評価（点数化）します。これらの評価に、英語の得点（TOEICスコアを換算したもの）を加え、その他の提出書類とともに総合判定を行います。

「**社会人特別選抜**」においては、勤務先の承諾または入学時に１年以上の勤務実績がある者に対して、プレゼンテーション要旨に添ってプレゼンテーションを行ってもらいます。それに対し、口頭試問・面接を行い、その他の提出書類とともに総合判定を行います。